

**時事新報定價**  
 時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況、  
 價報告あり其代價運送送料廣告料は左の如し  
 一、一月前金六十圓、三月前金一百五十圓、六月前金三  
 百圓、一年前金六百元、月別別  
 ○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 〇時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 〇時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、

**本社寄稿に付**  
 一行五號、電話、二二二二、一日以上、七日以上、  
 一月、三月、六月、一年、電話、二二二二、

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より  
 各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を  
 填寫するより各社同一の記事を掲載するも事からず獨  
 り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社  
 に通信を依頼せずとも世間往々此事を知らずして通  
 信社に之を依頼すれば本社にも其報道は達する事と信  
 ずる方多きが如し爲めに行進ひを生じたる場合も寡か  
 らざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直に  
 本社に向て發送せらるるを請ふ

**時事新報**

**詔勅に就て政府并に議會に望む**

今回下賜の詔勅に就ては去る十一日の紙上にも述べた  
 る如く皇意の優渥切實なる一麟の贊し奉る可き者なく  
 吾々臣民の分として唯恐入るのみなれども然らざ  
 る勅の文を拜讀して特に吾々の注意を要する點は「憲  
 法の施行方に初步に屬す始を慎み終を克くし端を今日  
 に正し大成を將來に期せざる可らず」と宣はせられた  
 る御辭に在る可しと信するなり抑も立憲の政は日本立  
 國以來幾千百年間の歴史に於て無き所にして西洋諸  
 國の例に倣ふて始めて行ふたるものなれば今日その端  
 を正すに當りて始を慎む可きは申す迄もなく既に一た  
 び之を行ふたる以上今後千萬世と雖も苟も變更を容す  
 可らず終を克くするとは即ち萬世の基礎を立つるの故  
 にして所謂大成を將來に期するの意も此に外ならざ  
 る可し之を建築に喩ふるに俗に云ふ一夜造りの家屋に  
 して意に滿たざるときは直に取毀して差支なきが如き  
 ものなれば勿々に圖引して勿々に着手するも可なれど  
 も苟も之と百年の後に存して建築の模範と爲さしめん  
 とする大建物は於ては圖引なり木組なり其計畫は決し  
 て容易の事に非ず況んや國家萬世の基礎たる憲法政治  
 に於てを其端を成すの始めに當りては最も慎重の意  
 を致さざる可らざるに然るに我國國會開設以來の有様  
 を見れば官民共に只管功を急ぎて西洋諸國にては數百  
 年來の經驗を犠牲にして漸く今日の結果を収めたる其  
 憲法政治を朝に施して夕に效を見んと期するもの如  
 し即ち雙方の期する所、互に大にして互に意に滿たず  
 年々歳々紛擾を呈して遂に過般來の衝突を致したる其  
 原因を尋ねれば即ち雙方共に功を急ぎたるが爲めに外  
 ならずして皇勅に所謂紛争日を曠くするの實を見たる  
 んを遺憾なれ思ふに憲法既に實施せられていよいよ立  
 憲政治と爲りたる今日に於ては實際に其效を収むるの  
 用意も素より肝要なれども前に述べたる如く今の時は  
 萬世の基礎を造らんとする始めにして所謂憲法の施行  
 方に初步に屬する時なれば其始を慎し大成を將來に  
 期するも大切なる可し即ち我輩が毎度論じたる如く  
 官民共に國會の組織を以て政治の練修所と心得、實際

**雜報**

**獨逸の陸軍擴張案**

は屢々記せし如く國會審  
 査委員の手に於て審査中にて宰相カプラーイ伯は其  
 委員會に出席し本案の修正せずして可決さるべき必要  
 を演説し委員は之を聞いて頗る感動したる模様なれば  
 多分審査に好結果を與ふべしと云ふ今同案の本文を見  
 るに總べて四條より成り其要點は左の如し  
 第一條 獨逸の常備兵數は普通兵卒、二等卒及び一  
 等卒を合し千八百九十三年十月一日より千八百九十  
 九年三月三十一日に至るまでの間毎年平均四十九萬  
 二千六十八人と定む  
 各聯邦は其人口に準じ各自の陸軍を以て右の常備兵  
 に加入するものとす此常備兵數を備ふるには一般兵  
 卒の現役年限を二箇年と爲し下士官の數は將校、軍  
 醫及び軍吏と同じく歳計豫算に於て之を定む若し下  
 士官の數に欠員ある時は右常備の外、別に其欠員の  
 數に應ずる普通兵卒を給養するものと得但し一年志  
 願兵は常備兵數に算入せず  
 第二條 千八百九十三年十月一日以降歩兵は七百十  
 一大隊、騎兵は四百七十七騎大隊、野砲兵は四百九  
 十四砲隊、歩砲兵は三十七砲隊、工兵は二十四大隊、  
 鐵道隊は七大隊、輜重兵は二十一大隊を以て編成す  
 右提出の理由及び説明書を見るに元來常備兵の定員は  
 千八百八十七年三月十一日の法律を以て千八百九十四  
 年三月三十一日までを限り四十六萬八千四百九十九人  
 其後千八百九十年七月十五日の法律を以て同年十月  
 一日以降前記期限まで四十八萬六千九百三十三人と定め  
 られたるに於て該法律の規程は千八百九十四年四月一  
 日前必ず變更せざるべからず千八百九十年十月一日以  
 降に至りては何等の事情ありて常備兵員を増加せざる  
 べからざるや以當時の理由書に於て説明し且其増員の  
 數を單に當時の需要に適應する姑息の員數に外なら  
 ざるを明言せり而して又今重ねて如何に軍政を改  
 善すべきの提議は頗る重大の問題なり何と云はれば既  
 に擴張したる某軍隊の編制のみを以て軍事上獨逸  
 帝國守衛の充分なるを確言し難きのみならず爾來  
 各國に於て改正若くは創成したる事業の結果によりて  
 生じたる現今軍事上の形勢は獨逸國をして亦非常なる

改革を行ふの必要を感せしむるに至りたれば初め獨逸  
 に於て實行したる國民一般に兵役に服するの制度は各  
 國の模倣する所となりたるにより曾て専有したる獨  
 逸の過重なる兵力は全く減却するに至れり  
 佛國に於て最近三年間の常備兵員は實に五十一萬九千  
 人にして千八百九十年間新に徵發されたる兵員は二十  
 三萬なり當時に於て豫期せる員數を超過するも一萬  
 人の多きに達し百人中二十五人の死亡者患者及び不合  
 格者を除却するも全國民中二十五歳までの年齢に達す  
 るものを總計すれば既に練達せる兵員四百五萬三千人  
 を有するに佛國は遠からずして其國の兵力(一國  
 民の軍事に使用さるるものとを得る力を云ふ)を充分に  
 使用するの事業を成就せんとするに至れり露國も亦其  
 軍隊の制度を擴張し致々緩急の準備に勉めたり其常備  
 兵は年々員數を増加し千八百八十九年度に於ては九  
 十二萬六千人なりしも千八百九十二年年度に於ては九  
 十八萬七千人の大兵を常備するに至り其内僅かに十萬  
 の兵を亞細亞に配置し残り八十八萬七千の兵は實に歐  
 羅巴露西亞の各鐵道に成衛せしむ千八百九十一年度に  
 於て徵發すべき新兵の員數は二十八萬千人(内二萬四  
 千人は亞細亞地方の徵發に屬す)と豫期したれども其  
 實數は頗る超過したるに似たり故に全國總軍の内年  
 二十三に達したるものを總計すれば百人中二十四人の  
 死亡者等を除却するも既に練達したる兵員四百五十五  
 萬六千人を有する割合なり  
 斯る形勢なれば獨逸帝國も亦其獨立を守護する爲め全  
 國の防禦力を使用し得べき計畫を爲さざるべからず即  
 ち増加すべき兵員の定數は目下の必要に出たるもの  
 にして現在の合格者を悉皆現役に服せしめ歩兵に限り  
 其服務期を短縮するものとす而して増加の全數は之を  
 現在常備兵の總數に比し通常兵、優等兵及び最優等兵  
 に於て七萬二千三百七十七人又豫算を以て別に確定すべ  
 下士に於て一萬千八百五十七人總計八萬三千八百九十  
 四人を増す割合なり左れば將來毎年志願兵五千人を合  
 し二十三萬五千人の新兵を徵發する時は百人中二十五  
 人の不合格者を算算するも二十四年の間に達したる練  
 達兵員四百四十萬を得る都合により既に有る限りの  
 力を盡せる佛國の準備を凌駕し且露國の準備にも甚だ  
 後るゝと云ふべし見たり

○福嶋少佐召還の電報 目下西比利亞内地にお  
 る福嶋少佐は浦潮斯德に出で陸路支那内地に入るの  
 豫定なるに參謀本部にては如何なる故にや浦潮斯德よ  
 り直ちに歸國すべき旨電報を發せしむる云ふ

○軍艦金剛 去月二十八日布哇國に著したる旨  
 昨日電報達したり

○武官の死去 陸軍二等軍正七位平田重太郎氏  
 は此程死去せり

○紀泉鐵道委員上京 紀泉鐵道敷設の希望を買  
 取せんが爲め昨日出京したるは大坂市會議長森作太郎  
 堺市長一橋作兵衛、和歌山市會議長森繁、同市委員關榮  
 藏の諸君も同席し同地方より委員の上京する  
 答なりし

○陳情委員上京 青森縣にては師範學校移轉問題  
 に就き弘前青森兩地方の有志者續々上京して文部大臣  
 に具陳する所あり昨今双方奔走中の趣な青森縣度又た  
 移轉反對運動の爲め南部方面即ち八戸、三戸、五戸等各  
 教育會陳情委員として淺水禮次郎上京せしよし

○空砲發火演習 是今日十四日府下南豐橋  
 に於て近衛步兵第二聯隊  
 郡調布村、及戶越村、  
 村及神奈川縣下橋樹  
 習を執行するよし

○軍艦の發着 同松嶋、千代田、高雄の  
 ク演に向ひ鹿兒嶋を  
 鹿兒嶋を解纜、同海門  
 向け長崎を振鐘、同  
 港を解纜せり

○東京市會 以昨  
 より明十五日に延期  
 ○紀念祭協賛委員  
 業會議所にて創立委員  
 奉せしに河田景福氏等  
 々分担を定めたり

一紀念祭舉行に係る  
 一紀念祭に係る諸外  
 一内裏宮殿省院官舎  
 一石標を建設し其保  
 一紀念祭と同時に各  
 合せの事

一各區地神祠古刹  
 一世界博覽會へ廣告  
 一紀念建築物設立の  
 一貴賓會支部を設立  
 一全國の貴顯紳士に  
 一全國の貴顯紳士に  
 一恒武天皇の御車  
 一一千一百年間の京  
 一來遊内外人の便  
 製の事

右は來る二十日更に集  
 四回博覽會の位置は  
 田町に一ヶ所、本國寺  
 所園山公園内に一ヶ所  
 上代金を書出さしむ  
 したる由

○大坂築港の測量 取り目下兵庫縣下尾ケ  
 月に入らば天保山沖合  
 デレック工師及び新  
 東京より出張して急々  
 ○普及會主相續習習  
 育家、實業家として有  
 中道に死す、が今回  
 事業を續けたるに依  
 八百松樓に招待して相  
 に應じて列席したるも  
 は如燕の講演、園遊の  
 々盛況なりし

○濠洲出稼人 和  
 瀬へ出稼のため神戸出  
 せしが右に到着の上、  
 といふ

○酒田丸 ユニ  
 移りて勢動に面へざる  
 を發したる彼の酒田丸  
 なり

○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 ○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 ○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、

○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 ○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 ○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、

○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 ○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、  
 ○時事新報社、東京、日本橋區、本町二丁目、電話、二二二二、